

第65回愛知県総合教育センター研究発表会

テーマ「誰一人取り残さない『豊かな学び』の実現を目指して」

令和7年11月28日（金） 愛知県総合教育センター

第65回愛知県総合教育センター研究発表会を、「誰一人取り残さない『豊かな学び』の実現を目指して」というテーマの下で開催した。当日はZoomを用いたオンライン開催、令和7年12月18日から令和8年1月30日までは、オンデマンドによる動画配信を行った。研究発表会当日のオンライン開催には約330名の参加者があり、オンデマンド動画の視聴回数は、延べ2205回となった。

以下に研究発表会の概要を紹介する。

1 開会行事次第

- ・開会のことば
- ・所長挨拶
- ・基調提案
- ・閉会のことば

2 講演

- ◆演題 「次期学習指導要領を見据えた学校教育の在り方
～子供たち一人一人の豊かな学びの実現を目指して～」
- ◆講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長
武藤久慶氏

3 研究発表・研究協議

次の研究について発表と協議を行った。なお、各研究の詳しい内容については、当センターウェブページを参照。

◇第1部会（小中高特）

自ら学ぶ力の育成に関する研究

【発表の概要】

本研究では、これからの時代を生き抜く子供たちが身に付けるべき「自ら学ぶ力」について解説するとともに、各研究協力校が設定した「自ら学ぶ力」と、それを育むための教育実践活動について、部会発表を行った。

「自ら学ぶ力」を育成するためには、児童生徒が学習に見通しをもつこと（Anticipation）、学習方略を身に付けること（Action）、振り返りを行うこと（Reflection）、それをまた次の学習の見通しへとつ

なげていく「AARサイクル」が有効であると考え、各研究協力校での実践事例を基に、児童生徒が自ら「AARサイクル」を円滑に回すためのポイントについて協議し、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の先生方にとって参考となる部会発表を行うことができた。

◇第2部会（小中高特）

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための探究的な授業づくりに関する研究（中間報告）

【発表の概要】

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の方策の一つとして、教科における「探究的な授業づくり」の在り方について、研究協力校における実践例を基に研究発表を行った。

本研究では、「探究的な授業に必要な5つの要素」を取り入れた実践により、主体的・対話的で深い学びを実現することで、児童生徒が未知なる事象と向き合い、課題解決を図っていこうとする意識を醸成できたかを、アンケートや振り返りの記述、授業記録の分析等を通して考察・検証を行った。また、「探究」を一つの型にはめるのではなく、各校の実態、各教科や単元・まとまりの特性、児童生徒の発達段階や経験に応じ、ふだんの授業のさまざまな場面において、探究的な視点に基づいた授業づくりを目指す研究にしたいと考えている。

◇第3部会（高特）

特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究

【発表の概要】

「特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究」について、基調提案と研究協力校6校による実践発表、トークセッションを行った。

基調提案では、自己理解に関する取組、主体的な進路選択に関する取組、進路先へのスムーズな移行に関する取組、そして、それらを通して高めたい生徒の資質・能力などの研究内容について説明した。

実践発表では、各校より自己理解を深めるためのツールを活用した取組や進路行事の充実、校内支援体制の構築に向けた取組についての発表を行った。個別の相談や指導を通して、生徒が自身の能力や特性の理解を深めたり、必要な支援を表現し、自ら求めたりすることができたこと、進路行事の振り返りの充実により、生徒が自己理解とともに進路先の理解を深め、主体的な進路選択ができたことなどの成果が報告された。

代表委員によるトークセッションでは、自己理解の深め方や自己評価と他者評価のすり合わせについて、また、個別相談の時間の確保や進め方などが話題に上がり、活発な意見交換が行われた。

◇第4部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（国語）

【発表の概要】

本研究では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる学習活動の在り方について、「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「古典探究」の四つの科目ごとに班を編成して授業実践を行い、その成果と課題をまとめた。

「現代の国語」班では、他者と協働的に学び、他者の意見を取り入れながら生徒一人一人が自らの考えを深められるような話し合いの在り方を模索した。「言語文化」班では、学習の個性化に着目し、「PRパンフレットを作成する」という言語活動を実践した。「論理国語」班では、指導の個別化を重視し、自由進度学習を取り入れた言語活動を試みた。「古典探究」班では、漢文の読解を通して登場人物への理解を深め、それを現代の俳優に結び付けてキャストイングするという言語活動を実践した。

また、それぞれの学習場面に応じたICT機器の効果的な活用法や評価の在り方についても考察を試みた。発表では、授業実践の具体例とその成果を中心に報告した。

◇第5部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（数学）

【発表の概要】

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「①主体的な活動を通した『思考力、判断力、表現力等』の育成」「②『主体的に学習に取り組む態度』の評価の在り方とそれを育成する指導法」「③教員チームで授業研究を進める方策」について、実践に基づいた研究成果を報告した。

①では、問題解決型学習をはじめとする主体的な活動に適した題材を考案・実践し、評価結果を分析して実効性や課題点をまとめた。

②では、「主体的に学習に取り組む態度」が、二つの観点から評価されることを踏まえ、これらを育成・評価するための振り返りシート等を作成・実践し、その成果をまとめた。

③では、東京学芸大学大学院の成田慎之介准教授の研究と連携して、研究授業に対して、大学関係者、運営委員、他校の研究員が事前・事後の研究協議と指導助言を行った。

これら三つの活動を県内の高等学校へ周知していきたいと考えている。

◇第6部会（高特）

県立高等学校教育課程課題研究（情報）

【発表の概要】

教科情報の各単元の目標に沿って、生徒が授業で学んだ知識や技能を活用し、主体的に取り組むことができるパフォーマンス課題を、複数の研究員が協力して開発した。その作成に当たって、思考力、判断力、表現力等を育み、学習内容の深い理解につなげる指導方法及び評価について、実際に授業を行い

ルーブリックの検証を行った。また、生徒が生成A I を利活用して問題発見・解決能力を身に付けることができるよう、パフォーマンス課題の一部に生成A I の利活用の場面を取り入れるよう検討した。

本発表では、「情報 I」の授業づくりについて、旅行プラン、雑誌やレシピのデザイン、幸福度と社会生活など、生徒にとって取り組みやすい題材を事例として取り入れ、生成A I を活用しながら試行錯誤を繰り返して最適な提案を作成したり、対話的な学びから自分の考えをまとめたり、自分の考察と比較して単元について更に深く理解したりするなど、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践の報告を行った。